

見えない優しさ

小学校6年の時の私の先生は、とても厳しい先生でした。挨拶の声が小さくて、みんな
で挨拶の練習を何度もしたり、放課後に漢字の特訓を受けたりしたことを覚えています。

私は、小学校卒業後、6年間一緒だった友だちとは別の中学校に行きました。中学2年
生のある日、部活動顧問の先生から呼ばれ、小学校6年の時の担任の先生が亡くなったこ
とを聞かされました。そして、私一人が入学するために、中学校に何度も通ってくれたこ
とや入学説明会の時、自分の小学校名が無いと私が悲しむだろうから、私の小学校名も書
いて欲しいと中学校にお願いされたことを聞きました。陰でしてもらっている優しさに気
付くことができなかった自分、そして今までしてもらった全てのことが私のためだったと
分かった時、とても情けない気持ちになりました。そして、この感謝の気持ちを先生に伝
えることができない悲しい気持ちでいっぱいになりました。

この先生のお陰で、私は人の見えないところでも優しく、そして人を表面で決めつけな
いような人になることができました。今、小学校6年生の時を思い返すと、学習面だけで
なく、生活態度や積極性、好奇心など、いろいろな面を育ててもらうことができ、とても
メリハリのある1年だったと思います。

私は、その先生をととても尊敬しています。

香川 百萌子

(高校生)